



住まいを彩るグリーン達



素材感のある材料が、柔らかな印象を与える



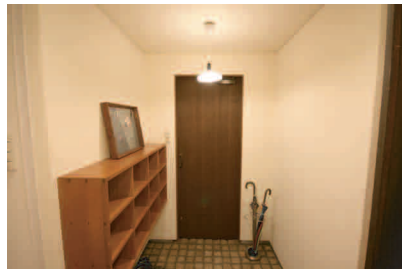
太陽の日差しが、いっそうの暖かさを運んでくれる



ほっつと落ち着く炎



崖際に広大なロケーションを望む



廃校で使用していた下駄箱が迎える玄関



どこか懐かしい、愛着の湧くアイテム達



新しい年を迎え、皆様におかれましては心機一転、新たな目標に向かい、飛躍の年であることをお祈り申しあげます。

又、昨年末の内覧会には、師走の時期にも関わらず、二百組を超えるお客様にご来場を賜り、盛況の内に内覧会を終える事ができました事を深く感謝いたします。

さて、今回は、内覧会を開催させていただきましたk様邸について、感じた事を書き述べていきたいと思います。

皆様は、内覧会をご覧になられて、どの様な印象をお持ちでしょうか？

内覧会以降、おこしいただいたお客様から、直接の声や、メール等で、様々なご意見をいただきました。その中で一番多かったのは、

「薪ストーブ一台で、家全体が暖かくなるなんて驚きました。」

と言う暖房についての声が意外に多かった事に驚きました。

(個人的には、間取りが良かったとか、カッコ良かったとかの方を期待していましたが・・・)

と言うのも、私自身は、そんなに暖かいとは思っておらず、寧ろ、薪ストーブに関しては、家の中で焚き火をする様なものだと思っていたので、期待していたよりも、そんなに暖かくなかったと感じていたからです。しかも、特別な断熱工事(高気密・高断熱)をしていた訳でもありません。

最近では、床暖房や蓄熱式暖房機等の輻射熱暖房が主流になっていて、同じコストをかけるのであれば、そっちの方が暖かいような気がしますし、薪を割ったり、火をつけたりしなくてすむので、管理が楽で、いいなと思っていました。

－ 内覧会を終えて思うこと －

ZUTUN便り Vol.1

しかし、今回の事で少し考え方が変わりました。

確かにこの時期、住宅展示場などに行くと、床暖房や蓄熱式暖房機、おまけにエアコンまでフル稼働して、モデルハウスの中は顔が赤くなるくらい暖かい(熱い?)ですし、快適な室内環境の様な気がしますが、あの暖かさと薪ストーブの暖かさは本質的な違いがある事に気づかされました。(因みに、モデルハウス並みの暖房を、一般家庭と同じ様に考えると、電気代等のランニングコストが大変な事になりますし、廊下にも暖房設備を設置して全館暖房を勧めるのは、企業として、エコイズムを提唱して省エネを目指す現代の主流と逆行しているのではないかと・・・と一人で勝手に思っています。)

少し話がずれましたが、薪ストーブの暖かさには、他の暖房設備と違って「肌で感じる暖かさ」の他に、「火を見る事で感じる暖かさ」があるのです。

人間なら誰でも「火」に対して暖かいイメージを持っていると思います。それは、太古の時代から火で暖をとってきた人間のDNAにインプットされ、本能的に火は暖かい(熱い)と認識しているからだと思いますが、そう思うと人間にとって暖かいとはどういう事なのか、改めて、考えさせられました。

その他にも「暖かい」と感じさせるアイテムはたくさん有ります。

例えば、この時期でも晴れた日の日差しの下ではボカボカと暖かいですし、肉まんを割った時の湯気や、鍋がグツグツと煮立つ音・・・その他にも色々あると思います。

暖かさを直接的に感じるだけでなく、二次的に五感で暖かさを感じる事で、四季の移ろいを感じ、豊かで楽しい時間を過ごす事ができます。

近頃は自分自身が便利さに慣れきってしまい、夏も冬も関係ない室内環境にとっぷりと浸かっていて、

暑さや寒さをしのぐ事を日常的に考えなくなってしまう様に思います。

ガングンに暖まった部屋で鍋をつつくより、適度な寒さを感じながらの方が、おいしさが倍増するはずですし、豊かで楽しい時間を過ごす事ができます。

夏は、風鈴の音色を聞いて、室内に入り込む風を感じたり、庭先の木の葉が風で揺れているのを眺めたり、身の回りに五感をくすぐるアイテムを置いておく事で涼しさを感じる事ができます。

人間にとって「暖かい」ということは、肌で感じる事だけではなくて、五感で感じる暖かさを付け足す事で、豊かで快適な住環境をつくる事ができるということを再認識しました。

そう言う意味では、薪ストーブの火は、暖かさを感ずる為の、最高のアイテムなんだと思います。

又、k様邸には住環境に求める快適性に欠かせない、「癒しの」アイテムも数多くあります。

薪ストーブの火を見る事も十分に癒されますが、素材感ある床材や、壁の漆喰塗りの仕上げ方、崖側に設けた大きな窓から見える景色、所々に飾られたグリーン達、その他にも目に映るものが、どこか懐かしい愛着の湧くアイテムで構成されていて、互いに共存しあいながら空間を楽しく盛り上げてくれているような気がします。

大切なのは、住まいを設計する段階で、五感で「癒し」を感じる工夫を盛り込む事ではないかと思えます。

日当たりや風通しだったり、癒しのアイテムを盛り込む事で、季節の移ろいを肌で感じ、一年がゆっくりと過ぎてゆく様な、贅沢で豊かな時間を過ごせるって素敵だと思います。

